

～アジアの「光」輝く都市連合・KANSAIを目指して～

2010年の関西ビジョン

魅力人間都市

1996年2月

社団法人 関西経済同友会
新しい関西委員会

は　じ　め　に

1994年秋、関西国際空港が開港し、1995年11月には、アジア太平洋経済協力会議・大阪（APEC OSAKA）が成功裡に閉幕し、関西が新しい時代の幕開けを告げた。グローバル化時代に関西が直接世界と向き合うことは測り知れない大きな意義がある。一方、昨年1月に阪神間を襲った大震災は関西に巨大な爪痕と同時に数多くの教訓を残した。

我々は新しい時代の到来と、かけがえのない経験のなかで、今こそ、21世紀に向けての新しい関西像の実現のために動き出さなければならない。

来るべき新世紀は、世界の諸都市、地域が主役となってそれぞれの産業・文化・生活などの各分野にわたって独自の魅力、活力を打ち出しながら、互いに競い合い結びつき合う都市・地域の大競争時代が到来するものと予測される。

このような時代に多様なポテンシャルを持つ関西の諸都市が、世界や日本のなかであってどのような将来像を描くべきかが、関西の産・官・学・市民にとって将に戦略的課題といえよう。

関西経済同友会としても、これらの諸機関と共に知恵と汗を出し、連携を図りながら主体的にとり組む決意をもって提言をとりまとめた。

関西に生活し、訪れる人々にとって、魅力と活力にあふれる2010年の新しい関西づくりを目指して、関係諸機関のご理解とご協力を切に願うところである。

- 目 次 -

はじめに

要 約	1
-----	---

全体の流れ	12
-------	----

1. 2010年を考える	13
--------------	----

2. 2010年の時代認識	17
---------------	----

3. 2010年の関西像	18
--------------	----

(1) 関西のパワー・ポテンシャル	18
-------------------	----

(2) 望ましい都市の姿	21
--------------	----

(3) 2010年の関西像	23
---------------	----

4. 「魅力人間都市」実現に向けての具体案	24
-----------------------	----

(1) 基本的な考え方	24
-------------	----

(2) 具体案	26
---------	----

①「創る」の具体案 「エンターテインメント・バレー」	
----------------------------	--

②「育くむ」の具体案 「アジア留学生10万人計画」「アジア観光大学」	
------------------------------------	--

「エンターテインメントビジネス学科の設置要望」	
-------------------------	--

「マイスターハウス」「ホスピランティア倶楽部」	
-------------------------	--

③「生きる」の具体案 「関西インテリジェンス・ポート」「グリーントラスト	
--------------------------------------	--

10」「アジア歴史街道」「アジア生活文化研究所」	
--------------------------	--

(3) プロデューサーシステムの推進にあたって	35
-------------------------	----

①「関西プロデュース・ボード」	
-----------------	--

②モデル地区での推進	
------------	--

③タスクチームによる推進	
--------------	--

④計画中のプロジェクト・イベントを活かした推進	
-------------------------	--

⑤行政との連携	
---------	--

〈おわりに〉

〈表-2010年までのプログラム〉

平成6・7年度新しい関西委員会活動状況	43
---------------------	----

平成7年度新しい関西委員会常任委員会名簿	45
----------------------	----

～アジアの「光」輝く都市連合・KANSAIを目指して～

2010年の関西ビジョン

「魅力人間都市」

《要約》

1994年秋、関西国際空港が開港し、1995年11月には、アジア太平洋経済協力会議・大阪（APEC OSAKA）が成功裡に閉幕し、関西が新しい時代の幕開けを告げた。グローバル化時代に関西が直接世界と向き合うことは測り知れない大きな意義がある。一方、昨年1月に阪神間を襲った大震災は関西に巨大な爪痕と同時に数多くの教訓を残した。

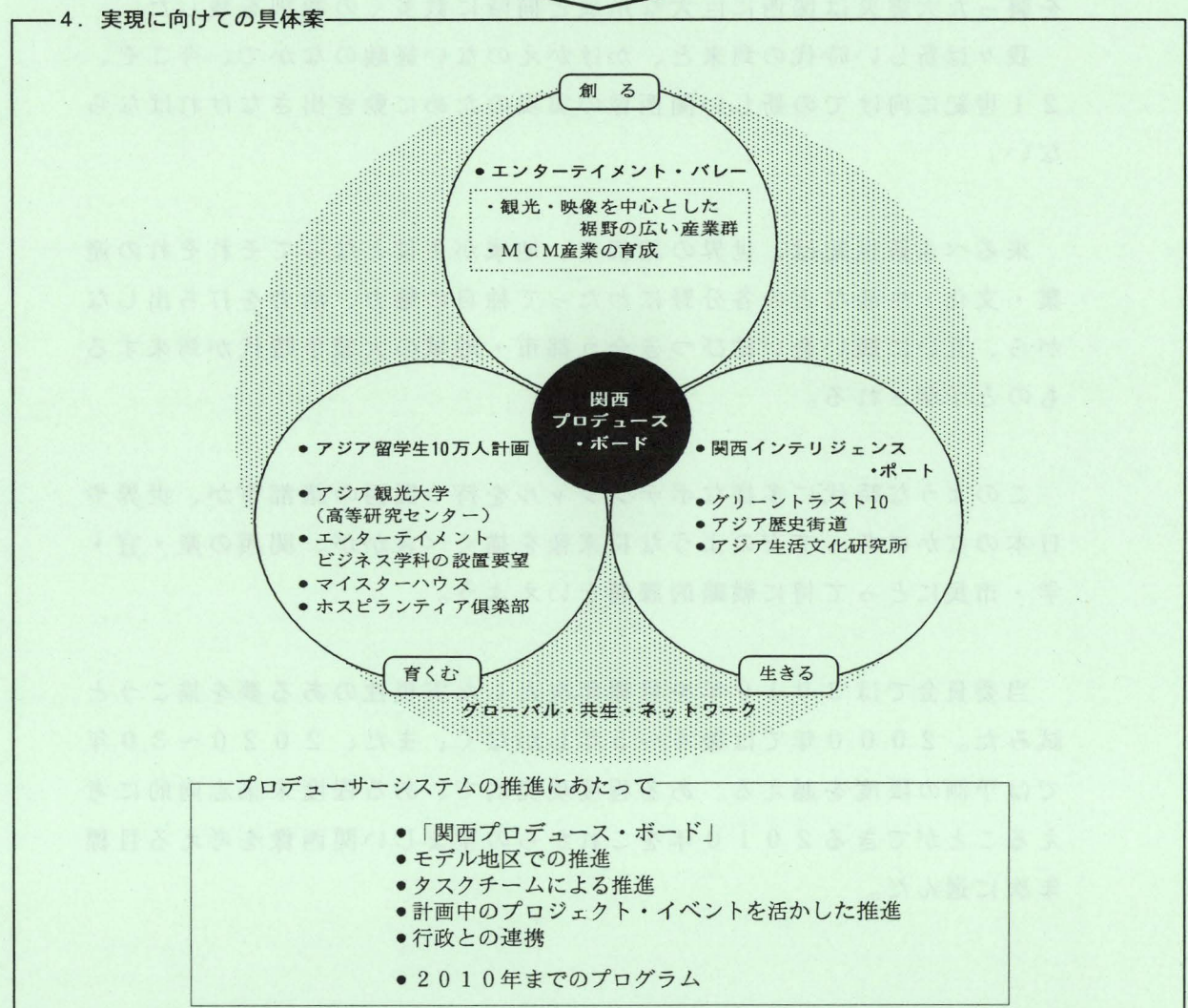
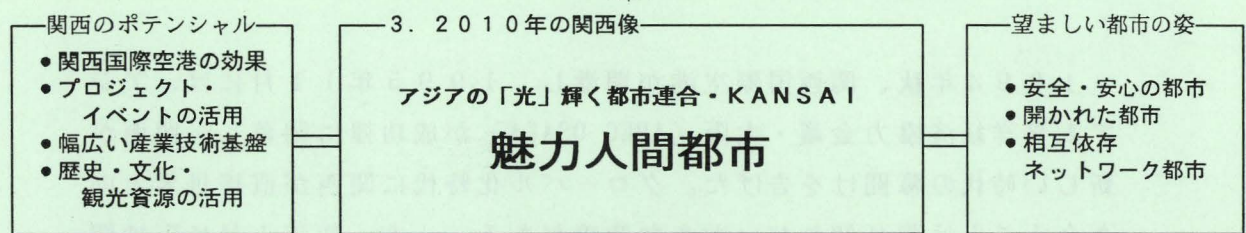
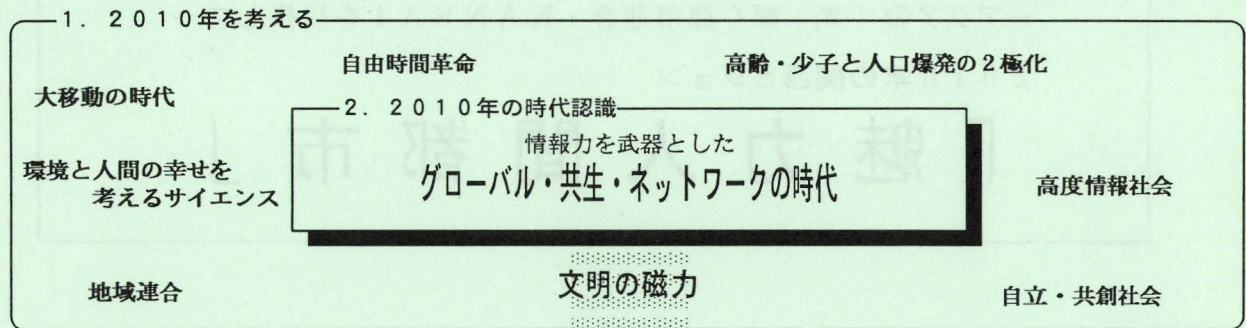
我々は新しい時代の到来と、かけがえのない経験のなかで、今こそ、21世紀に向けての新しい関西像の実現のために動き出さなければならない。

来るべき新世紀は、世界の諸都市、地域が主役となってそれぞれの産業・文化・生活などの各分野にわたって独自の魅力、活力を打ち出しながら、互いに競い合い結びつき合う都市・地域の大競争時代が到来するものと予測される。

このような時代に多様なポテンシャルを持つ関西の諸都市が、世界や日本のなかにおいてどのような将来像を描くべきかが、関西の産・官・学・市民にとって将に戦略的課題といえよう。

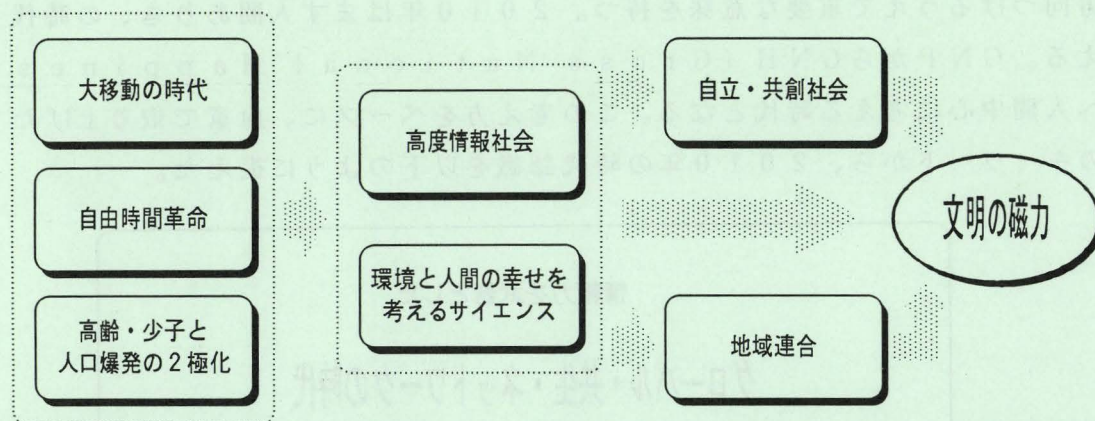
当委員会では2010年を目標年次とした実現性のある夢を描こうと試みた。2000年では後4～5年しかなく、また、2020～30年では予測の限度を越える。ある程度現実的で、ある程度未来志向的に考えることができる2010年をこれからの望ましい関西像を考える目標年次を選んだ。

全体の流れ



1. 2010年を考える

■キーワードマップ



□文明の磁力

これらのキーワードをベースとして、2010年の関西像を導きだしていくためには、関西の固有の魅力＝文明の磁力が必要であり、関西にとって何を磁力としていくかを十分考えていかねばならない。

都市の魅力求めて人々が移動する流動性の高まる時代にあって、都市なり、地域なりが優位性を保つためには、経済・産業・技術の先進性ばかりではなく、トータルな魅力が必要であり、心から尊敬される要素がなければ優位性を保てない時代となる。

日本及び関西パッシングの可能性さえある状況のなかで、定住人口重視型から交流人口重視型へのシフトを指摘されている時代に、関西が活力ある都市であり続けるためには、多くの人々を魅了する都市の総合的な魅力＝文明の磁力を強めることが何よりも重要である。

2. 2010年の時代認識

「2010年」をどのように捉えるのか。その時代認識が2010年の関西を方向づけるうえで重要な意味を持つ。2010年はまず人間ありき、の時代といえる。GNPからGNH（G r o s s N a t i o n a l H a p p i n e s s）へ人間中心に考える時代となる。この考え方をベースに、前章で取り上げた7つのキーワードから、2010年の時代認識を以下のように捉えた。

情報力を武器とした

グローバル・共生・ネットワークの時代

3. 2010年の関西像

（1）関西のパワー・ポテンシャル

パワー・ポテンシャルについては、大きく2つの考え方がある。ひとつは、現在関西が持っているパワー・ポテンシャルを伸ばしていく考え方。もうひとつは、選択的・戦略的に育て伸ばしていく考え方の2つである。この2つの考え方を念頭において、関西のパワー・ポテンシャルを4つの視点で整理した。

- ☐ 関西国際空港の効果
- ☐ プロジェクト・イベントの活用
- ☐ 幅広い産業技術基盤
- ☐ 歴史・文化・観光資源の活用

（2）望ましい都市の姿

21世紀の都市の基本要素（＝分母的要素）は何かを検討し、21世紀の望ましい都市の姿として以下の3つの考え方で整理した。

- ☐ 安全・安心の都市
- ☐ 開かれた都市
- ☐ 相互依存ネットワーク都市

(3) 2010年の関西像－関西のありたい姿

2010年、関西が目指すべき姿は何か。これまでに検討してきた2010年の時代認識、関西のパワーとポテンシャル、そして望ましい都市の姿をもとに、2010年の目指すべき関西像を検討した。

変化の時代を読み切ることは難しい。言い換えれば変化が激しく不透明な時代ほど人々の「こうしたい」という意思、志しが問われる。以下にまさに関西人が2010年はかくありたいと望む関西像を描いてみた。

アジアの「光」輝く都市連合・KANSAI

魅力人間都市

21世紀がアジアの時代であることは世界の共通認識であるといっている。関西は歴史的、地勢的にアジアと強いつながりを持ち文化的、経済的にも深い関係を保ってきた。しかし、21世紀におけるアジアとの関係はこれまでのような経済や科学技術の先進性に依拠したものでなく、お互いが多様な価値を認め合いつつ「共に」発展していくという姿勢が重要となる。その中で、KANSAIからの光－関西の魅力がアジアの人々をマグネットのように引き付け、心から尊敬される都市として認められるようになることを目指さなければならない。

魅力ある都市をつくるのは何よりも魅力ある人間の存在である。

先に21世紀は情報を制するものが時代を制すると述べた。情報には様々な側面があるが、情報とは即ち人であり、人に固有に附属するものである。多彩、多様な人々－「魅力人間」が集う都市こそが情報都市であり、魅力都市となる。

そして様々な魅力－様々な情報を持った人々を求めてまた更に多様な人々が集う魅力ある「人間都市」が誕生する。多くの人が住んでみたい、訪れたいと思う人間の魅力輝く都市こそが多くの人々の尊敬に値し、新しい関西の文明の磁力となって光輝くことができる。

関西が「魅力人間都市」となることを21世紀の共通の志しとして掲げ、魅力人間都市実現のための戦略的、具体的な推進に向けてスタートすることを提案する。

4. 「魅力人間都市」実現に向けての具体案

2010年の関西像「魅力人間都市」の実現を目指して、具体的に以下のような案を提案したい。

この章ではまず最初に、具体案を考えるうえでの基本的な考え方を三つの分野に整理して示したうえで、次にそれぞれの具体案を述べる。そして最後に、これらの案を推進して行くための体制について提案する。

(1) 基本的な考え方

「魅力人間都市」の実現に向けての具体案を整理すると、①2010年の産業育成・振興を図るための「創る」、②人材の育成や広い意味での教育を行なう「育くむ」、③市民や企業が誇りを持って生きて行くことのできる「生きる」の三つの分野が大きなテーマになる。

活力ある都市の源は、常に新しい産業を育成、振興していくことにある。新しい産業の育成・振興は、既存の産業群の活性化にも結び付きその相乗効果により一層大きな活力をもたらす。しかし社会経済システムや人々の価値観の激しい変化はこれまでの20世紀型の産業とは異なった、エンターテインメント・ビジネスをはじめとする新しいビジネス群を生み出す。激しい変化に対応できる既成概念にとらわれない柔軟な心と先見性が要求される。

単なる「創る」産業振興一本やりではなく、これまで我が国が蓄積してきた技術やノウハウ、資金をアジアのために活用する「育てる」心と、誇りを持って生きることができ、共に豊かな暮らしを実現するための「生きる」心が下支えし、この三つの心がお互いにリンクしながら新しい都市の魅力を生み出して行かなければならない。そして、それらを束ねる要としてのプロデューサーの存在が不可欠である。

(2) 具体案

①「創る」の具体案

①-1. エンターテインメント・バレー

②「育くむ」の具体案

②-1. アジア留学生10万人計画

②-2. アジア観光大学（高等研究センター）

②-3. エンターテインメントビジネス学科の設置要望

②-4. マイスターハウス

②-5. ホスピランティア倶楽部

③「生きる」の具体案

③-1. 関西インテリジェンス・ポート

③-2. グリーントラスト10

③-3. アジア歴史街道

③-4. アジア生活文化研究所

(3) プロデューサーシステムの推進にあたって

これまでに述べた「創る」「育くむ」「生きる」の三つの機能を融合させ、それらを具体的に展開していくコアとしてのプロデューサーの重要性について提案したい。関西には**多様な都市があり、多様な基盤（行政、企業、市民など）があり、多様なプランが交錯する中で、これらをフラットなネットワークとして十分に機能させ得るオーガーナイザーあるいはデザイナーとしての役割を果たす「プロデューサーシステム」**が必須条件となる。

これまで関西には多くの優れた集積とポテンシャルがありながら、十分な力が発揮できなかったのもこうした存在が欠けていたからと言える。いい提案を出した人間に任せる、という位の大乗的なサポートシステムが必要となつてこよう。

こうしたプロデューサーの活躍の場－環境づくりと発掘・育成を目指して、「**関西プロデュース・ボード**」（仮称）を提言する。

①「関西プロデュース・ボード」

2010年、社会は観客型社会から参加型社会へと移行している。この時代の地域開発をリードしていくのは、高い目標を掲げ、強い実行力で推進して行く「プロデューサー」である。これまでに本会の各委員会をはじめ行政や他の団体など各方面から様々な関西の21世紀ビジョンが示されているが、いかに優れた提案もそれを実行する人に恵まれなければ実現はおぼつかない。先見性、リーダーシップ、資金（調達）力など様々な資質とともに強い情熱で地域を革新する「人」の存在が不可欠である。

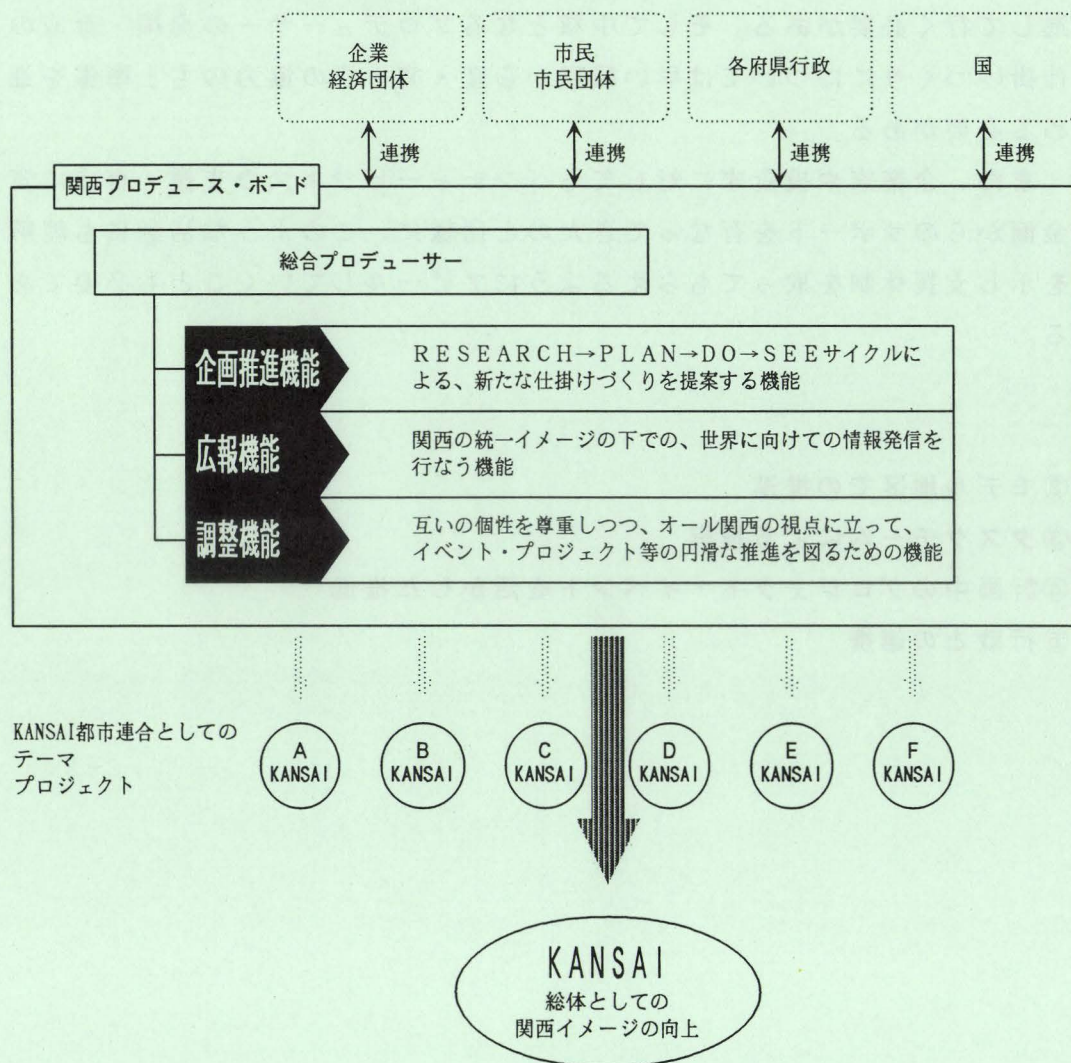
関西の行政や様々な分野の団体が「プロデュースする」ということを常に意識し、その組織の重要な事業戦略の柱として位置付け、多彩な事業を推進していくことが重要である。加えてさらに、強い情熱をもった新たなプロデューサー達が輩出される土壌を整備することが必要である。そしてそれらの様々な活動をネットワークしていく要として「**関西プロデュース・ボード**」の設立が望まれる。

プロデューサーは、①個々のプロジェクトを機能的に推進する「個別」プロデューサーと、②関西全体を戦略的に俯瞰しネットワーク的にプロジェクトを推進する「総合」プロデューサーが必要である。総合プロデューサーは、基本的機能である新たな仕掛けづくりを提案し推進する「企画推進機能」に加えて、オール関西の統一アイデンティティの下で関西全体を世界に向けて情報発信する「広報機能」、多種多様なプロジェクトをオール関西の視点に立って円滑に推進するための「調整機能」を併せ持つ。関西プロデュース・ボードが具体的に機能することにより、活力あふれる新

しい関西が生まれるとともに、「総体としての関西のイメージ」が向上し、魅力人間都市・関西が世界に発信されることが期待される。

2010年の関西が目指す「魅力人間都市」の実現に向けて、「関西プロデュース・ボード」は、これまでに述べた諸提案をはじめ各方面からの提言や様々な広域プロジェクトを具体的に推進、調整する総合プロデュース機関となる。

■ 関西プロデュース・ボードの展開イメージ



「関西プロデュース・ボード」は、（段階的に機能整備を図って行くべきであるが）目標として（１）地域のプロジェクトを総合的・戦略的に推進できる立場とヒト・モノ・カネ・情報等のバックアップ体制の整備、（２）プロデューサーが活躍できる環境整備と今後活躍が期待されるプロデューサーの発掘・育成、を二本柱として展開する。

関西プロデュース・ボードの設立に当っては、経済団体・企業をはじめ市民団体、各府県や国等に広く呼びかけ、設立に向けての準備会を作り推進して行く必要がある。そして中核となるプロデューサーの発掘・育成の仕掛けづくりにについては早い段階から産・官・学の協力のもと準備を進める必要がある。

また、企業家や投資家に対してもベンチャービジネスの支援・育成に資金面からのサポートを行なってきたのと同様に、このような活動にも理解を示し支援体制を取ってもらえるようにアピールしていくことも必要である。

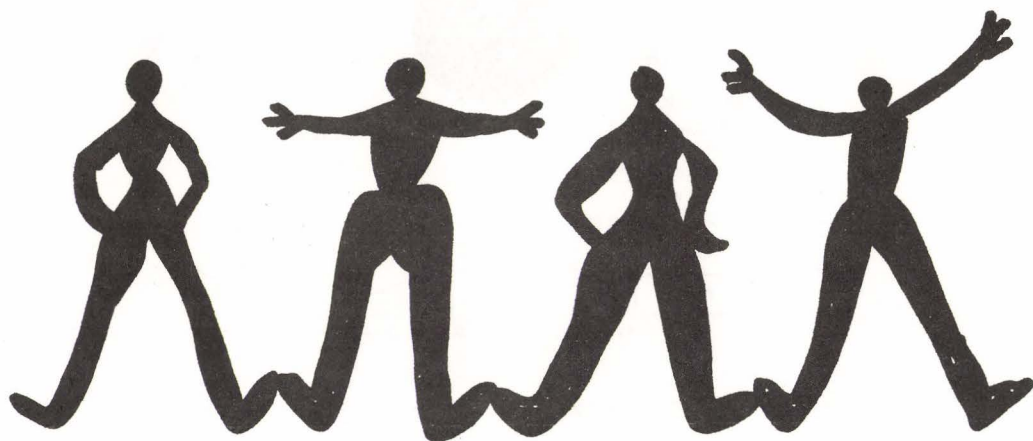
- ②モデル地区での推進
- ③タスクチームによる推進
- ④計画中のプロジェクト・イベントを活かした推進
- ⑤行政との連携

～アジアの「光」輝く都市連合・KANSAIを目指して～

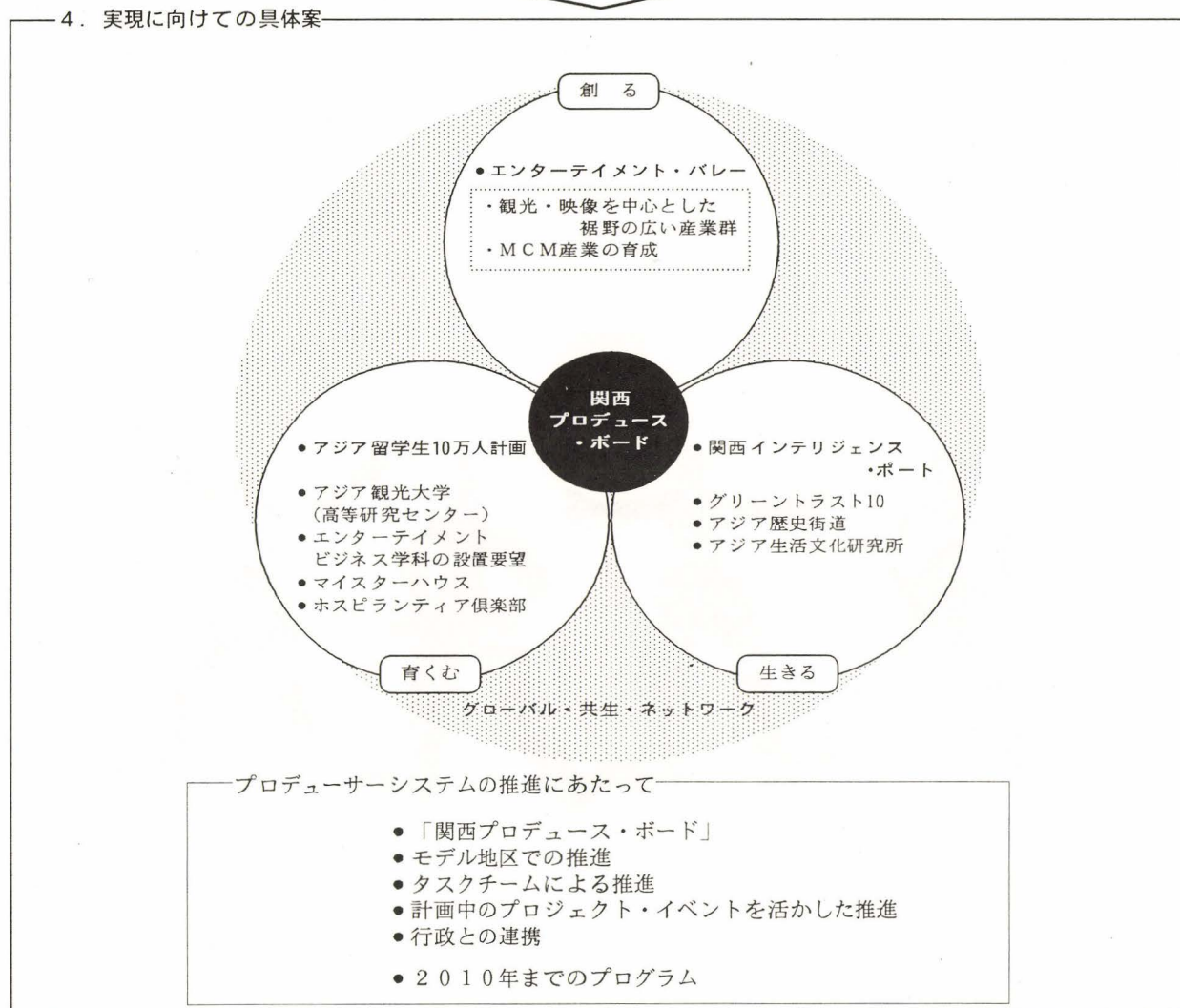
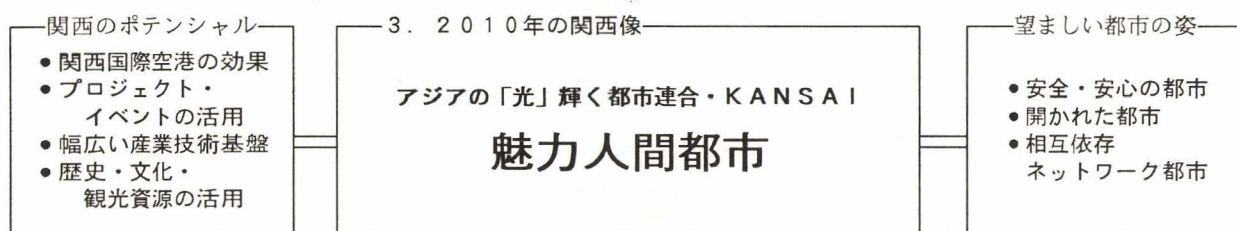
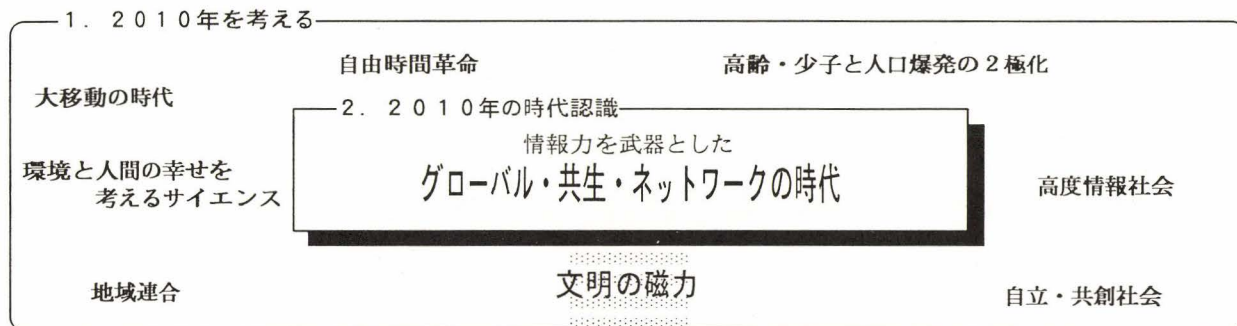
2010年の関西ビジョン

「魅力人間都市」

(本文)



全体の流れ



1. 2010年を考える

今、世界ではポスト冷戦構造のなか、新しい枠組・国際秩序の構築に向けた様々な動きが展開されている。国内においても、戦後築き上げてきたシステムの見直しや転換が必要となっていており、国内外とも新世紀を目前に混迷の時代となっている。

このような時代にあって、当委員会では2010年を目標年次とした実現性のある夢を描こうと試みた。2000年では後4～5年しかなく、また、2020～30年では予測の限度を越える。ある程度現実的で、ある程度未来志向的に考えることができる2010年をこれからの望ましい関西像を考える目標年次を選んだ。

2010年を考えるにあたって、世界・アジア・日本・関西における変化要因や環境・エネルギー、人口構造、価値観、産業等の分野における動向を整理し、様々な角度から研究・討議を重ねた。2010年迄の15年間は、我々が過去に経験したことのないスピードで様々なことが動き、社会的にも経済的にも先行きがわからない不透明な要素が多い時代であり、国内外において次の時代の新しい枠組づくりを模索・構築し、定着させるための熟成期間であるとも考えられる。

2010年の方向性を指し示す多くのキーワードのなかから、以下の7つのコトバ（大移動の時代、自由時間革命、高齢・少子と人口爆発の2極化、高度情報社会、環境と人間の幸せを考えるサイエンス、自立・共創社会、地域連合）を選び出した。

□大移動の時代

WTO（世界観光機関）の推計によると、全世界の外国旅行者数は昨年5億人を超え、更に2000年には7億5千万人、2010年には10億人に拡大する。国立民族学博物館の石森助教授は、2010年には第4次観光革命が起こり、その中心となるのは、経済の大発展が予測されているアジアの人達であると指摘している。

このようなアジアを中心とした大移動の時代に乗り遅れないためには、国・都市・街のありようを大きく変えていくとともに、受け皿としてどのようにハード・ソフトを整備していくか、そこに住み、暮らす人自体も大きく変わらなければならない。

□自由時間革命

総理府の「国民生活に関する世論調査」において、レジャー・余暇生活が今後の生活の力点の第1位になって久しい。労働時間の短縮と自由時間の増加傾向や価値観の多様化、それに伴う自由時間革命は着実に進行している。

地域や家族を大切にし、文化、こころ等非経済的・非物質的なものに対する志向の高まりとともに、グローバル化の進展で多様な文化・ライフスタイルとの融合が進み、個々人が独自の価値観で生活を楽しむ社会が到来しつつある。

また一方で、これらの動きは新しい文化の創造、次代の産業や経済社会の発展を促すものでもある。

□高齢・少子と人口爆発の2極化

21世紀にかけて日本では、戦後初めて人口が減少に転じるとともに、高齢化が加速し、人口動態に大きな変化が生じる。これらの変化は、労働力を量的・質的に変化させるとともに、社会福祉への負担増、福祉のマンパワーの不足等をひきおこす。また、併せて元気高齢者の増加は、老後の人生を生きがいを持ちながら積極的に楽しめる社会づくりを必要とする。

一方世界に目を転じると、アジアを中心に人口爆発が予想され、食糧問題やエネルギー問題、環境等の都市問題等が生じる結果となる。

国内の労働力人口の低下等に起因する問題への対応とともに、グローバルな視点での対応が必要となる。

□高度情報社会

農業革命、産業革命を経て、今、世界は第3の革命である情報革命の時代に突入した。情報革命の最大の特徴は、その「スピード」と「見えない仕組み」にある。農業革命が3000年、産業革命が300年の時間を費やして達成されたのに対し、情報革命は30年で高度情報時代を創り出すといわれ、2010年には高度情報通信が社会基盤となっていることが予想され、国や地域の枠組を越えて情報が飛び交う時代となる。

産業や都市においても、高度情報通信を利用した情報収集・創出の仕組みとこれを活用する仕組みとを構築することにより、全体のレベルアップを図りつつ世界との共生を考えていかなければならない。

□環境と人間の幸せを考えるサイエンス

20世紀は、科学技術の進歩の歴史であった。21世紀にかけては、一層科学技術が社会に果たす役割は大きくなり、科学技術がより人間に身近なものとなる。なかでも、生活を重視する傾向の強まりに伴って、人間の幸せの根源を考えるライフサイエンス分野におけるイノベーションが進み、ライフサイエンス分野からの発想が、これからの新しい産業や生活スタイルを創出するエネルギーとしてクローズアップされる。

同時に、ここまで発達したサイエンスを駆使し、人類共通の課題である地球環境問題にも積極的に取り組まなければならない。大阪と滋賀にUNEPの国際環境技術センターを持ち、APECの成果としてAPEC環境技術交流バーチャル（日本）センター（仮称）の設立の合意がなされた関西は、社会的にも経済的にもあらゆる計画の中に環境問題への取り組みを折り込んで推進していく必要がある。

□自立・共創社会

戦後日本の繁栄を築いた工業化社会では、産業の仕組みづくりや街づくりを経済効率至上主義で行なってきた。物質的な豊かさから、非経済的・非物質的なものへの志向が高まるなか、企業や行政に頼ることの多かった市民も自立した考えに立ち、生活者の視点から積極的に参加しはじめ、市民・企業・行政が一体となって新しい社会システムを創り出すことが必要な時代になってきた。

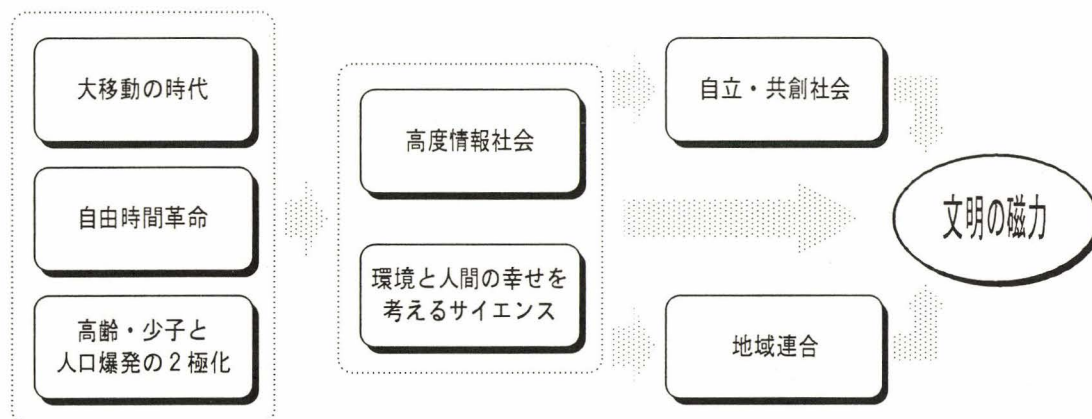
21世紀の脱工業化社会（＝高度情報社会）では、対等なパートナーシップにもとづき、自立した市民と自立した企業と自立した行政が共に新しい関係を築き、市民満足度の高い参加型社会への移行が求められる。

□地域連合

ボーダレス化の進展は、国の枠組を飛び越えて、都市と都市が直接対峙し合う都市間競争の時代をもたらしている。

21世紀は、自立した各々の都市が相互に緩やかな関係を維持し、多様性を認めたうえで共通目標の達成、共通課題の克服を目指したネットワークを組みパワーを発揮していく時代である。多様な都市の連合体である関西は、大きな可能性を秘めており、魅力ある地域連合の仕組みづくりが大きな課題となる。

■キーワードマップ



□文明の磁力

これらのキーワードをベースとして、2010年の関西像を導きだしていくためには、関西の固有の魅力＝文明の磁力が必要であり、関西にとって何を磁力としていくかを十分考えていかねばならない。

都市の魅力を求めて人々が移動する流動性の高まる時代にあって、都市なり、地域なりが優位性を保つためには、経済・産業・技術の先進性ばかりではなく、トータルな魅力が必要であり、心から尊敬される要素がなければ優位性を保てない時代となる。

日本及び関西パッシングの可能性さえある状況のなかで、定住人口重視型から交流人口重視型へのシフトを指摘されている時代に、関西が活力ある都市であり続けるためには、多くの人々を魅了する都市の総合的な魅力＝文明の磁力を強めることが何よりも重要である。

2. 2010年の時代認識

「2010年」をどのように捉えるのか。その時代認識が2010年の関西を方向づけるうえで重要な意味を持つ。2010年はまず人間ありき、の時代といえる。GNPからGNH（G r o s s N a t i o n a l H a p p i n e s s）へ人間中心に考える時代となる。この考え方をベースに、前章で取り上げた7つのキーワードから、2010年の時代認識を以下のように捉えた。

情報力を武器とした

グローバル・共生・ネットワークの時代

2010年を考えるベースとして、まず、情報革命が最終段階に入っていることを念頭におく必要がある。高度情報社会が形成され、情報の創出と活用の仕方が問われる時代であり、まさに、**2010年は情報を制するものが時代を制する時代**である。

高度情報社会におけるボーダレス化・グローバル化の進展は、国の枠組を飛び越えて、都市が直接世界と向き合うだけでなく、市民一人ひとりが直接世界と向き合うことを可能にさせる。既に、インターネット等により実現されているこのような動きは、2010年には個人の生活のなかにも深く浸透し、ビジネス、教育等あらゆる分野で世界をフィールドとしたネットワークが重要な意味を持つ時代となる。

このようなヨコ型ネットワーク社会においては、**互いに理解し合い、認め合う対等なパートナーシップが基本**となる。

自立した「個」同士が、対等な関係で**分野や目的に応じてネットワークを構築**する動きのなかで、共に人間性豊かな社会づくりを実現する時代になっている。

3. 2010年の関西像

2010年の関西像を考えるにあたり、関西が持っているパワー・ポテンシャルをどう2010年につなげるのか、21世紀の望ましい都市の姿は何か、2つの側面から、2010年の望ましき関西像を描いた。

(1) 関西のパワー・ポテンシャル

パワー・ポテンシャルについては、大きく2つの考え方がある。ひとつは、現在関西が持っているパワー・ポテンシャルを伸ばしていく考え方。もうひとつは、選択的・戦略的に育て伸ばしていく考え方の2つである。この2つの考え方を念頭において、関西のパワー・ポテンシャルを4つの視点で整理した。

□関西国際空港の効果

関西の期待を一身に背負って開港した関西国際空港も1年以上経過し、様々な評価と問題点が指摘されている。

関西国際空港は、潜在的な旅行需要を喚起し旅客数を伸ばすとともに、航空貨物の基地としての機能も発揮しだしている。また、空港を軸としたインフラの整備等により、世界都市・関西の基盤づくりを着実に進展させ、APEC大阪会議を誘致・実現させることにもつながった。

しかし、一方では必ずしも開港前の期待どおりに運んでいない部分も多く、24時間空港の機能を十分活かしきれていないことや、波及効果を積極的に活用して地域の活性化に結び付ける点で具体像が見えないなどの問題点が指摘されている。

大移動の時代、アジアの人達が中心ターゲットとなるなかで、全体構想の実現を目指して、一層競争力の高いハードの整備が実現する2010年には、国内外とのネットワークの拡充等、**装置を生かすための魅力あるソフトづくりが何よりも重要**となる。競合関係のなかでのハブ化戦略を今後どのように組立てていくか、関西が一丸となった取り組みが必要となってくる。

□プロジェクト・イベントの活用

21世紀に向けて関西一円で数多くのプロジェクトが計画・推進されて

いる。また、2008年の大阪オリンピック、2002年のサッカーワールド杯大会等国際的なイベントの誘致に向けての取り組みも官民協力のもと推進されている。

これらのプロジェクトの大半が姿をあらわす2010年には、関西国際空港をはじめとする空港ネットワークや明石海峡大橋等により、一層緊密な交通体系が整備されるとともに、数多くの集客装置、学術研究都市等が整備され、**グローバル時代を積極的にリードする基盤として関西に新しいパワーをもたらしているものである。**

また、21世紀の新しい関西を創っていくにあたっては、これらプロジェクト・イベントを2010年を目標として、**関西の統一イメージづくり**に生かしていくための**新たな仕組み**を創らねばならない。

□幅広い産業技術基盤

関西は、古くから日本経済の中心地としてその役割を担ってきた。関西には、これまで培ってきた生活関連分野を中心とした製造業等の幅広い産業技術基盤がある。これらの幅広い産業基盤は、21世紀の新しいビジネスにおいても生かしていかなければならない。

同時に、これまでアジアの各地に弱電や繊維等の関西の産業技術の力が様々なかたちで蓄積されてきた。これらの蓄積を今後うまく活用し、**良きパートナーとしてアジアとの共生を図っていくことが必要となる。**

新しいビジネスを数多く輩出してきた関西の起業家精神を生かし、21世紀の新しい産業を創出する仕掛けを創ることが緊急な課題となってきた。関西の起業家精神を21世紀にも維持・継承して行くためには**ソフトベンチャーに対する支援**が大きな役割を果たすと考えられる。また、関西文化学術研究都市をはじめ、西播磨テクノポリス、京都リサーチパーク等の学術研究施設のネットワークを活用し、そこから生まれる**基礎研究の成果を応用することにより、生活重視のトレンドにマッチした新しいビジネスへと結び付ける**ことも必要である。

□歴史・文化・観光資源の活用

世界文化遺産に認定された法隆寺や姫路城等をはじめ、関西は数多くの歴史・文化財を有する。また、豊かな自然環境にも恵まれた地域でもあり、これらは**関西が誇れる、他地域にはない優れた特質**である。

しかしながら、21世紀を展望するにあたっては、単に歴史・文化財・観光財としての資源があるという過去の蓄積としての歴史・文化でなく、

今とどうかかわるか、将来人々とどうかかわるのかという観点で活用を図る必要がある。例えば観光についても、特定の観光スポットを見学する「名所型観光」から複合的要素を同時に楽しむ「都市型観光」へとSeeからDoへ変化するなかで、関西の資産をどう現代にリメイクし、ソフト化して新しい観光に生かしていくかを考えねばならない。

関西には、阪神・淡路大震災の不幸な体験のなかから見いだしたパワー・強さがあり、震災によって今後も大切なパワーが何かを学んだ。命のインフラである「ライフライン」、人と人をつなげる「ヒューマンライン」、心をむすぶ「コミュニケーションライン」の重要性を今一度見つめ直すことにより、関西のパワー・精神風土が一層強固なものとなることが期待される。

これらのパワー・ポテンシャルを2010年に向け更に発展・継承させるためには、直接関わる人達のみならず、関西全体が情熱を持って取り組む必要があり、人や金の面でも更なる投資が必要となる。

(2) 望ましい都市の姿

21世紀の都市の基本要素(＝分母的要素)は何かを検討し、21世紀の望ましい都市の姿として以下の3つの考え方で整理した。

□安全・安心の都市

「成長」「効率」が街づくりのキーワードとなる時代ではなく、「安全」「安心」がそれにとって代わるキーワードとなる。世界的な都市競合のなかで、「安全」「安心」は都市における普遍的な魅力条件であり、都市の**最重要選択基準**にもなる。

昨年1月に関西を襲った阪神・淡路大震災は、我々に多くの教訓を与えた。なかでも、防災・治安面での「安全」と、「安心」して暮らせる大切さは、関西の市民・企業が身を持って感じた最も大きい教訓であるといえる。2010年の関西を考えるうえでも、何よりも「安全」「安心」を優先させた街づくりを考える必要があり、関西こそがそのモデルづくりを進める使命を担う地域でもある。

流動性の高い、都市間競争の時代には、防災面や治安面での「安全」な都市の実現は当然のことである。「安全」な都市の上に更に、様々なネットワークや開かれた社会等により、訪れる人達にも、そこに住み、活動する市民・企業にも高い市民満足度を与え、「安心」した暮らしを味わえる都市の実現を図らなければ、多くの人が集まる魅力ある都市になることができない。

□開かれた都市

関西は、古代からアジアを中心とした国際交流によって発展してきた地域である。また、それらの歴史的背景をベースに、関西特有のホスピタリティあふれるあたたかい気質を培ってきた。このような関西のよさを21世紀に受け継ぎ、ダイナミックでオープンな都市として発展していくことが望まれる。

そのためには、あらゆる面で内外に開かれた都市である必要がある。**多様な価値観・文化をお互いが認め合い、尊重する多様性を受け入れる都市であると同時に、様々な規制にも積極的に取り組み、情報や技術が得やすい等誰もが住みやすく、活動しやすい都市にしなければならない。**

また、ハードの面でも関西国際空港を中心に交通体系をより綿密なものとし、開かれた都市の基盤をより強化していかなければならない。

□相互依存ネットワーク都市

関西の魅力のひとつは、それぞれ個性あふれる都市の集合体であることにある。関西のそれぞれの都市が、多様な魅力を互いに尊重し、認め合うとともに、多様な魅力を持った都市が同一目標をもって、トータルな新しい関西イメージ＝関西アイデンティティを確立することが必要となる。**強力なアイデンティティを持つことで、関西の各都市が持つ多様な魅力を一層際立たせることができる。**

同時に、関西の相互依存ネットワークは、自立分散型のネットワークでなければならない。阪神・淡路大震災では、一極集中型システムの脆さが露呈し、自立分散型のシステムづくりが緊急の課題として突き付けられた。震災で得た教訓を生かし、**関西の各都市が互いに都市のポテンシャルや魅力を相互に理解し合ったうえで、都市機能の分散と補完が可能となる自立分散型ネットワークを創り上げねばならない。**

(3) 2010年の関西像－関西のありたい姿

2010年、関西が目指すべき姿は何か。これまでに検討してきた2010年の時代認識、関西のパワーとポテンシャル、そして望ましい都市の姿をもとに、2010年の目指すべき関西像を検討した。

変化の時代を読み切ることは難しい。言い換えれば変化が激しく不透明な時代ほど人々の「こうしたい」という意思、志しが問われる。以下にまさに関西人が2010年はかくありたいと望む関西像を描いてみた。

アジアの「光」輝く都市連合・KANSAI

魅力人間都市

21世紀がアジアの時代であることは世界の共通認識であるといっている。関西は歴史的、地勢的にアジアと強いつながりを持ち文化的、経済的にも深い関係を保ってきた。しかし、21世紀におけるアジアとの関係はこれまでのような経済や科学技術の先進性に依拠したものでなく、お互いが多様な価値を認め合いつつ「共に」発展していくという姿勢が重要となる。その中で、KANSAIからの光－関西の魅力がアジアの人々をマグネットのように引き付け、心から尊敬される都市として認められるようになることを目指さなければならない。

魅力ある都市をつくるのは何よりも魅力ある人間の存在である。

先に21世紀は情報を制するものが時代を制すると述べた。情報には様々な側面があるが、情報とは即ち人であり、人に固有に附属するものである。多彩、多様な人々－「魅力人間」が集う都市こそが情報都市であり、魅力都市となる。

そして様々な魅力－様々な情報を持った人々を求めてまた更に多様な人々が集う魅力ある「人間都市」が誕生する。多くの人が住んでみたい、訪れたいと思う人間の魅力輝く都市こそが多くの人々の尊敬に値し、新しい関西の文明の磁力となって光輝くことができる。

関西が「魅力人間都市」となることを21世紀の共通の志しとして掲げ、魅力人間都市実現のための戦略的、具体的な推進に向けてスタートすることを提案する。

4. 「魅力人間都市」実現に向けての具体案

2010年の関西像「魅力人間都市」の実現を目指して、具体的に以下のような案を提案したい。

この章ではまず最初に、具体案を考えるうえでの基本的な考え方を三つの分野に整理して示したうえで、次にそれぞれの具体案を述べる。そして最後に、これらの案を推進して行くための体制について提案する。

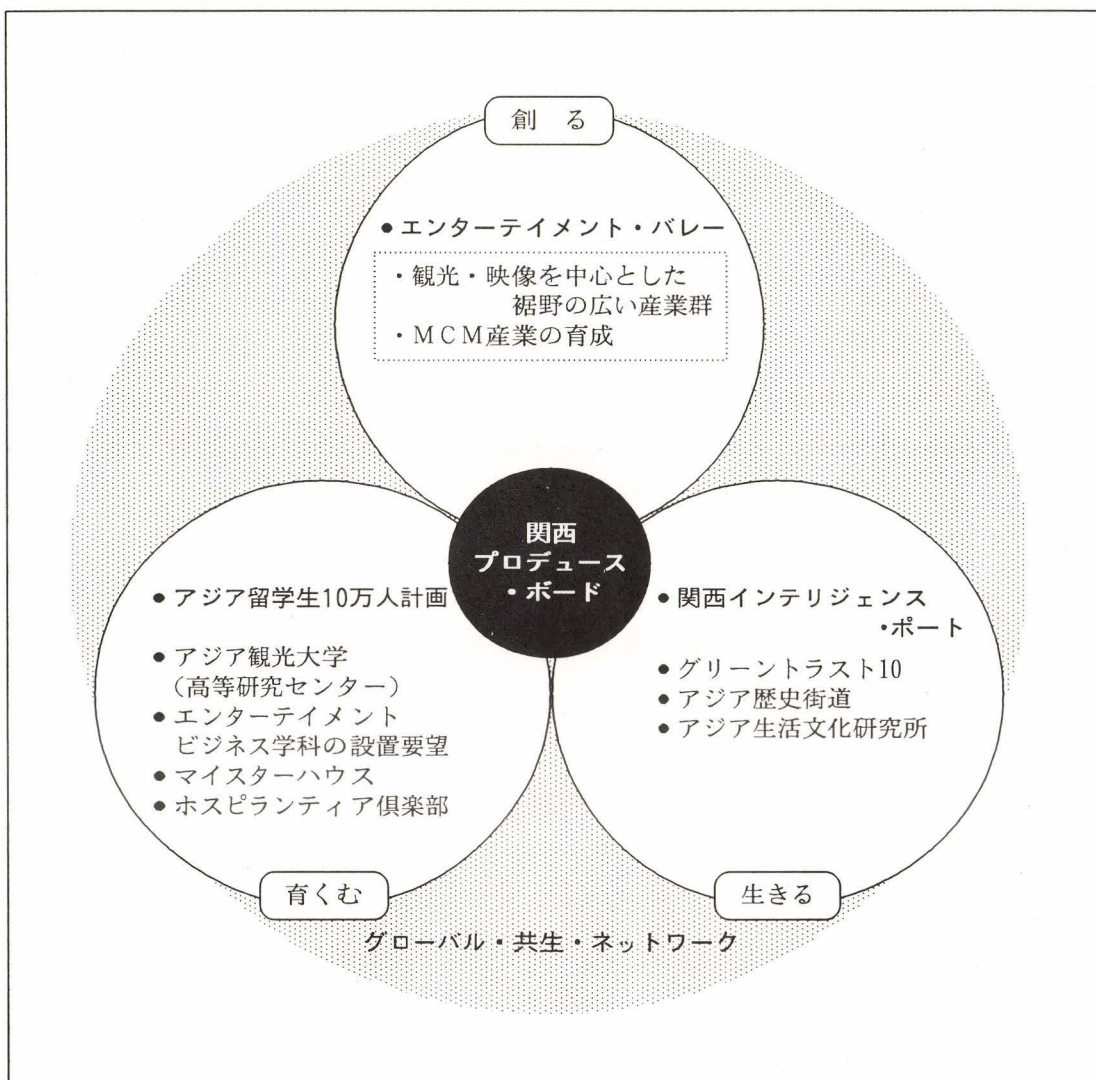
(1) 基本的な考え方

「魅力人間都市」の実現に向けての具体案を整理すると、①**2010年の産業育成・振興を図るための「創る」**、②**人材の育成や広い意味での教育を行なう「育くむ」**、③**市民や企業が誇りを持って生きて行くことのできる「生きる」**の三つの分野が大きなテーマになる。

活力ある都市の源は、常に新しい産業を育成、振興していくことにある。新しい産業の育成・振興は、既存の産業群の活性化にも結び付きその相乗効果により一層大きな活力をもたらす。しかし社会経済システムや人々の価値観の激しい変化はこれまでの20世紀型の産業とは異なった、エンターテインメント・ビジネスをはじめとする新しいビジネス群を生み出す。激しい変化に対応できる既成概念にとらわれない柔軟な心と先見性が要求される。

単なる「創る」産業振興一本やりではなく、これまで我が国が蓄積してきた技術やノウハウ、資金をアジアのために活用する「育てる」心と、誇りを持って生きることができ、共に豊かな暮らしを実現するための「生きる」心が下支えし、この三つの心がお互いにリンクしながら新しい都市の魅力を生み出して行かなければならない。そして、それらを束ねる要としてのプロデューサーの存在が不可欠である。

■ 3つの分野とプロデューサーシステム



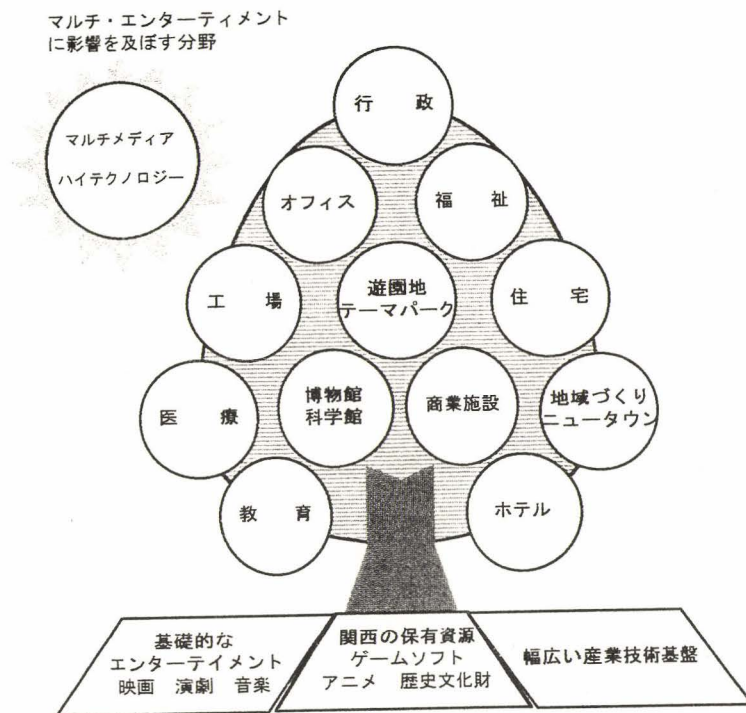
(2) 具体案

①「創る」の具体案

「魅力人間都市」を生み出す活力の素として21世紀の新しい産業振興を図ることが重要な課題となる。21世紀の新しい産業振興を図るための具体案として、拠点となる「エンターテイメント・バレー」が検討された。

21世紀はまず人間ありき、人々がそれぞれに楽しい生活を繰り広げていく時代である。人間の楽しみを提供する広義のエンターテイメントビジネスが21世紀の中心ビジネスとなる。あらゆる分野で、楽しさ、気分のよさ、知的好奇心といった感情に作用し、その分野の本来の目的をより効果的に達成させようとする機能であるエンターテイメント要素が必要となる。21世紀のエンターテイメントビジネスは、映像・音楽・演劇といった従来のエンターテイメントビジネスの枠組に囚われることなく、エンターテイメントのノウハウを幅広い分野へ応用するなど広く捉えていくことが可能である。エンターテイメントビジネスは、極めて裾野が広く5兆円市場になる可能性が指摘されるなど、無限の可能性を秘めている。

■エンターテイメントビジネスの拡がり



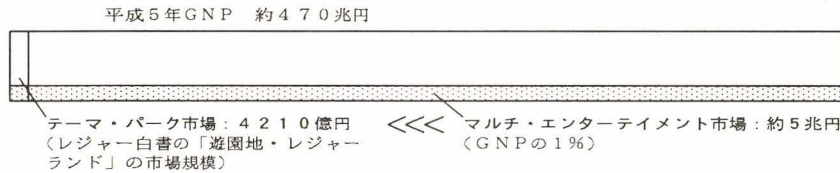
(ダイヤモンド社「マルチエンターテイメントビジネス」より加工)

①-1. エンターテインメント・バレー

目 的	エンターテインメントビジネスを関西の新しい基幹産業として育成・振興させることを目的とする。
内 容	●人を「もてなす」「楽しませる」ことに関連するエンターテインメント・ビジネスの拠点として整備する。 ●観光・映像を中心とした裾野の広い産業群 ●MCM産業の育成 - M／メッセ - C／コンベンション - M／ミュージアム ●起業家や関連事業者、関連研究・研究機関等が高密度のネットワークを形成し、協働して新たなエンターテインメントビジネスを創出する。 ●研究者や企業家の人間的な触れ合いの場を設け、活発な人的情報交換（know howからknow whoへ）を通して連結効果を生み出す。

エンターテインメントビジネスは、情報力・クリエイティブ力が最も問われる分野であることから、関西がこれまで培ってきた幅広い産業基盤や、歴史・文化財、学術研究都市での基礎研究の成果等を生かした展開を図ることができる産業でもある。

■エンターテインメント市場の可能性



■エンターテインメント要素の分野別特徴

分 野	特 徴	事例（アメリカ）
商業施設	楽しくすることにより滞留時間を長くさせ、消費意欲をかきたてる	ユニバーサル・シティ・ウォーク ホートン・プラザ
ホテル	他のホテルとの差別化 ホテル内消費の喚起	ウォルト・ディズニー・ワールド ラスベガスのテーマホテル
地域づくり	観光客の増加、老年層の定住	ラスベガス オーランド
エンターテインメント・センター	規模を小さくすることにより負担を軽くする 客層の絞り込み	シネトロポリス ホテル・ルクソール
レストラン	他のレストランとの差別化 リゾート地に立地することによる相乗効果	ミディエバル・タイムズ ウィザード
医療	病院の持つ冷たいイメージの排除 治療効果の上昇	ヘルス・セントラル ギブ・キッズ・ザ・ビレッジ
教育	知的好奇心を高め教育効果をあげる	スペース・センター・ヒューストン ホロコースト・ミュージアム
オフィス	生産性の向上 新しい人材の採用	チーム・ディズニー キャスティング・センター

（ダイヤモンド社「マルチエンターテインメントビジネス」より）

②「育くむ」の具体案

アジアとのつながりが深い関西が、アジアとの共生を目指すためには、良きパートナーとしてアジアの発展に貢献することが求められる。なかでも共生を図る土台となる人づくりにおいて、アジアのインキュベーターとして機能することが重要である。同時に、関西が「魅力人間都市」として様々な人を受け入れるためには、ホスピタリティの更なる醸成など、市民意識の向上を図る必要があり、共に育くむ新しい教育システムの果たす役割は大きい。

「育くむ」の具体案として、「アジア留学生10万人計画」「アジア観光大学」「エンターテイメントビジネス学科の設置要望」「マイスターハウス」「ホスピランティア倶楽部」が検討された。

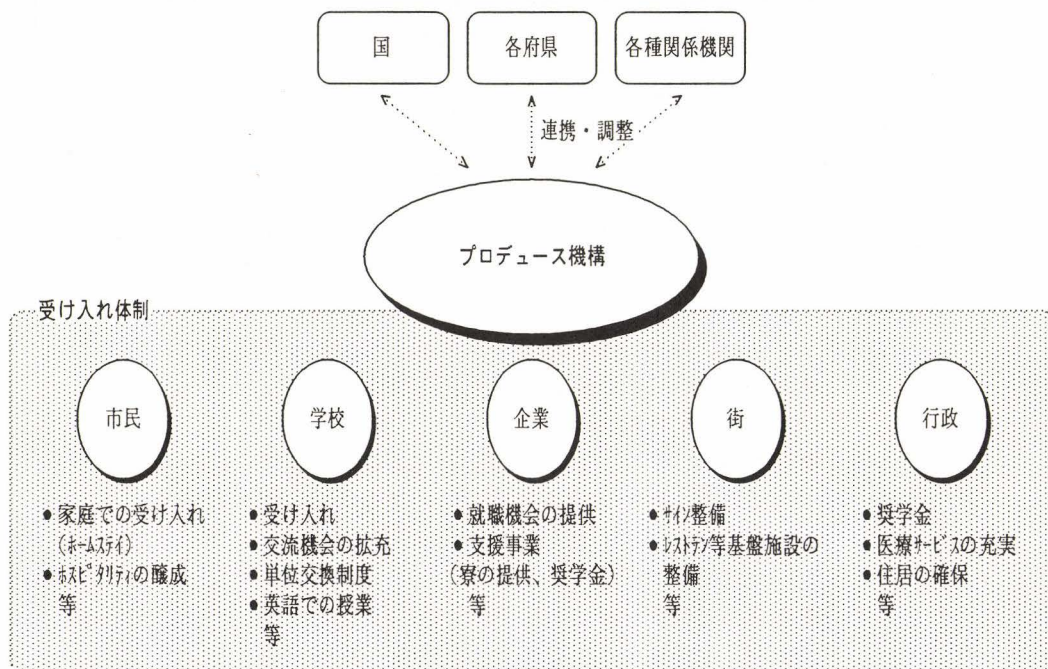
②-1. アジア留学生10万人計画

関西が、21世紀のアジアを担う人達を支援・育成することは、アジアのなかに数多くの親関西派を生み出す。また、留学生や企業等の技術研修生がもたらす様々な情報や文化との交流は、産業面や文化面等に新たな刺激を与える。

同時に、多数の留学生・研修生を受け入れるためには、受け入れ体制を十分整える必要があり、インフラの整備や市民意識（ホスピタリティ）の向上等を促進させる結果となり、都市機能面においても関西全体の活性化に大きく貢献する。

目 的	アジアの次代を担う留学生・企業研修生を受け入れ、教育や研修に協力するとともに、アジアの各地域との一層の交流を図る場を関西が提供する。						
内 容	● 2010年を目標年度において、アジア各国から積極的に留学生・研修生の受け入れを図る。 ● 関西の意気込みとして、最終目標を10万人に設定し、今後各段階において計画的な受け入れ目標を設定する。 ● 各府県・国、各種関係機関との連携・調整を図り、留学生・研修生の受け入れのための窓口となるプロデュース機構を設置する。 ● 産・官・学一体となった幅広い受け入れ体制を構築することにより、アジアの学生等の誘致を図る。 ● 帰国後も関西との絆を深めながら、留学生・研修生相互の交流を図れるクラブを設置する等、帰国後のフォローアップも行なう。						
参 考	● 留学生がもたらす直接的な経済効果に加え、留学生の家族・知人等が関西を訪れることによる消費等間接的な経済効果も見込まれる。 〈直接消費額試算〉 <table><tr><td>1人当り年間支出額</td><td>留学生数</td><td></td></tr><tr><td>1,191,600 円</td><td>×</td><td>100,000 人 = 119,160 (百万円)</td></tr></table> ※ 1人当り年間支出額は、「大阪府留学生生活実態調査」(1991年調査)による支出金額の加重平均値を基にした数値。	1人当り年間支出額	留学生数		1,191,600 円	×	100,000 人 = 119,160 (百万円)
1人当り年間支出額	留学生数						
1,191,600 円	×	100,000 人 = 119,160 (百万円)					

■ アジア留学生10万人計画推進のための仕掛け



②-2. アジア観光大学（高等研究センター）

内 容	●学際的・業際的な広い意味での観光についての調査・研究や観光ビジネスに携わる専門家の育成を行なう。 ●同時に、観光に関するあらゆる情報収集と発信を行なう情報拠点を目指す。 ●WTO（世界観光機関）アジア太平洋事務所等関係諸機関との連携を図り、アジアの観光に関するプロデュース機能を担う。
-----	---

②-3. エンターテインメントビジネス学科の設置要望

内 容	●エンターテインメントビジネスを担う人材の育成を目的として、関西の大学にエンターテインメントビジネス学科の設置を要望する。 ●エンターテインメントビジネスの先進国であるアメリカのUCLAのカリキュラム等を参考にする。 ●関西及びアジアのエンターテインメントビジネスの発展を促進させる機関としての整備を目指す。 ※UCLAのカリキュラムは次頁参照
-----	---

②-4. マイスターハウス

内 容	●既存施設の支援・整備を含め、関西の中小企業や地場産業等の先進技術や伝統技術等21世紀に通用するトップクラスの技術力を修得するための技術者育成施設を整備する。 ●指導者には、各分野で活躍する関西・アジアのトップクラスの技術者を招聘する。 ●アジア各国からも技術研修生を受け入れ、積極的な技術移転も併せて推進し、アジアの人づくりにも貢献する。 ●研修ニーズを的確に掴み、研修コースや指導者のコーディネートを行なうためのプロデュース機能を充実させる。
-----	--

②-5. ホスピランティア倶楽部

内 容	●ホスピタリティの涵養と、自ら主体的に活動できる市民の育成を目指し、NPO等のボランティア団体の拠点機能を担う。 ●サッカーのW杯大会やオリンピック等関西で行なわれるイベントの際には、ボランティアの派遣を行なうなど、関西全体のホスピタリティの醸成を目的とした活動を積極的行なう。 ●関西を訪れる人達への情報提供や交流窓口等ビジターズ・ビューロー機能を整備する。 ●広く市民、団体、企業の理解と諸事業への参加、諸事業を行なうための資金援助の協力を得るため賛助会員制度を設ける。 ●市民意識の向上を目指した市民講座の開催やボランティアリーダー及びボランティアコーディネーターの育成を行なう。 ※ホスピランティアとは、ホスピタリティとボランティアを併せた造語
-----	---

■（参考）UCLAにおけるカリキュラム

分野（大分類）	分野（個別分類）	講座例（関連あるもの）
芸術	建築、芸術史、芸術理論、写真	レストラン・デザイン・ツアー
ビジネス・経営管理	会計、ビジネス、コミュニケーション・スキル、会議、セミナー、フード・サービス、法律、経営管理、マーケティング、広告、不動産、建設	
コンピュータ・情報システム	コンピュータ経営管理、コンピュータ技術	
デザイン	コンピュータ・グラフィックス、ファッション・デザイン、グラフィック・デザイン、インテリア、環境デザイン、景観デザイン	デジタル・イメージング カラーリング理論と応用 環境分析、計画論
教育	成人教育、職能開発、コミュニティ・カレッジ、コンピュータ、カリキュラム、手法、早期幼児教育、若手プログラム、ESL教育	
エンジニアリング	航空宇宙エンジニアリング、建設エンジニアリング、電気エンジニアリング、エネルギー・エンジニアリング、環境科学、防火エンジニアリング、生産エンジニアリング、水道エンジニアリング	
エンターテインメント	映画、演劇、ビデオ、マルチメディア、TV音楽	アニメ、CMのための個性的発声、一人舞台の開発、映画セットの設計、ストーリー・メイキング、メイクアップ技術、セットデザインとモデル制作、オーディオ・エンジニアリング、照明技術の発展、映画音楽の作り方
フィットネス	フィットネス、インストラクション、屋外レクリエーション	
健康科学	アルコール・ドラッグ、公衆衛生、精神衛生 口腔衛生、看護、心理学	
人文社会科学	人類学、考古学、コミュニケーション学、東アジア文化、経済学、民俗学、歴史学、言語学、文学、哲学、政治学、社会学	
ジャーナリズム	ファンド・レイジング ジャーナリズム	
語学	ESL 通訳	
自然科学	天文学、生物学、化学、地理学、地質学、数学、物理学	
ライティング	スクリーン・ライティング、インタラクティブ・メディア、コピーライティング	映画のストーリー分析 アニメーション・ライティング

（出典）UCLA Extension資料より

（ダイヤモンド社「マルチエンターテインメントビジネス」より）

③「生きる」の具体案

開かれた都市、安全・安心な都市として、人間の魅力が輝く都市の実現を目指すためには、そこに住み、活動する市民が誇りを持って生きることができる都市でなくてはならない。同時に、多様なアジアの文化を互いに尊重し、理解し合うことにより共通の価値感を生みだし、アジアの人達と共に豊かな暮らしを実現していく必要がある。

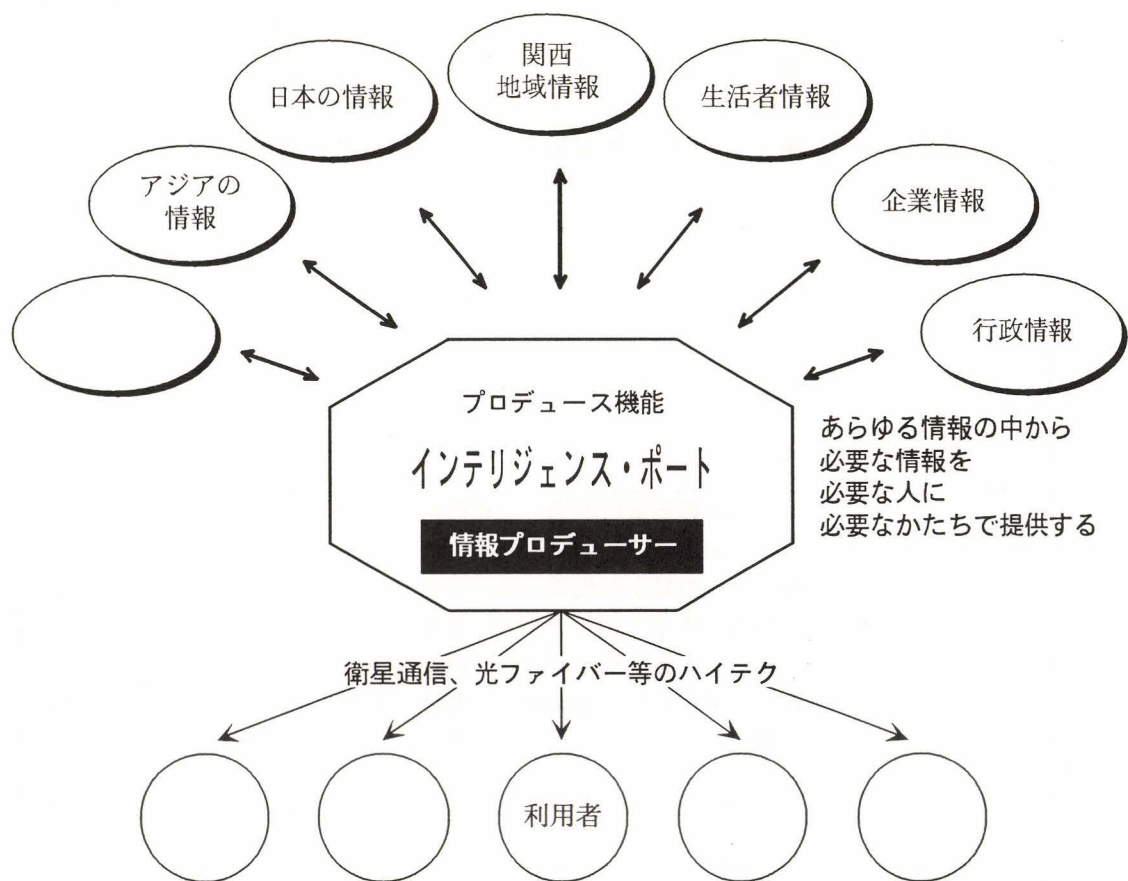
「生きる」の具体案として、「関西インテリジェンス・ポート」「グリーントラスト10」「アジア歴史街道」「アジア生活文化研究所」が検討された。

③-1. 関西インテリジェンス・ポート

高度情報社会が訪れる21世紀は、情報の収集力、発信力とともに、その活用力が問われる時代である。イノベーションとクリエイションの素となる情報の活用力を高めることが、都市の活性化にも結びつく。また、情報環境を整備し、関西を訪れる人や関西で暮らし・活動する人の情報を活用するためのサポートを行なうことは、高度情報時代のホスピタリティを高めることにもなり、情報力が決めてとなる時代には、生きる心を生み出す基盤となるものである。

目 的	関西を訪れる人や、暮らし・活動する人の幅広い情報ニーズへの対応と情報の活用をサポートし、イノベーションとクリエイションを生み出す魅力的な情報環境を整備する。
内 容	●①ビジネス（新規事業開発、法務会計サービス、国際会議、通訳・翻訳、官庁情報等）、②生活（住宅、医療、教育、ショッピング等）、③観光（地域情報、アミューズメント）についてマルチメディアにも対応したあらゆるデータベースにアクセスできるネットワークを構築し、関西に居ながらにしてあらゆる情報をキャッチできるようにする。 ●あらゆる情報の中から、必要な情報を、必要な人に、必要なかたちで提供するために、熟練のサーチャーと情報プロデューサーをおく。 ●関西全域の主要拠点にキーステーションを設置し、分散型ネットワークの構築を図る。

■ 関西インテリジェンス・ポートの展開イメージ



③-2. グリーントラスト10

内 容	●誇りの持てる街にするためのひとつの仕掛けとして、関西の共有財産づくりを目的に実施する。 ●行政や企業による施設の建設や、市民が家を新築する際などに街の共有財産となる「みどり」を提供する。 ●10本の木、敷地の10%あるいは10㎡の緑地、建設費の10%をそのために使う等10という数字にこだわって、各々ができる範囲で関西のみどりの環境づくりに貢献する。 ●「グリーントラスト10」事務局を設け、あらゆる機会・媒体を通して広く市民に呼びかけ、これらの動きが関西の市民運動として展開されるようにする。
-----	---

③-3. アジア歴史街道

内 容	●アジアの豊富な歴史・文化財を活用し、アジアの交流を更に拡げるための交流の場や楽しみの場づくりを行なう。 ●アジアの良さを世界に発信する文化発信事業に積極的に取り組み、交流を生みだすイベント、観光ルートの開発や基盤整備等ソフトとハードを組み合わせた展開を図る。 ●アジア歴史街道振興財団（仮称）の設立を提唱し、事業の推進を図るとともに、アジア都市連合としての結び付きを強化する。
-----	---

③-4. アジア生活文化研究所

内 容	●多様な歴史・文化・生活習慣を持つアジアの人々の生活者動向を調査・研究を通して相互理解を促進し、生活者の視点に立った社会システムづくりに貢献する。 ●アジア各国のライフスタイルや消費動向等の生活者動向の調査・研究を行なう。 ●研究者の相互派遣等研究者レベルでの交流促進や共同研究の実施等によるアジアの各国との連携の強化。 ●ハワイのEAST-WEST CENTER等アジアの地域研究機関や日本の生活者動向研究機関等との連携を図る。
-----	--

(3) プロデューサーシステムの推進にあたって

これまでに述べた「創る」「育くむ」「生きる」の三つの機能を融合させ、それらを具体的に展開していくコアとしてのプロデューサーの重要性について提案したい。関西には**多様な都市があり、多様な基盤（行政、企業、市民など）があり、多様なプランが交錯する中で、これらをフラットなネットワークとして十分に機能させ得るオーガーナイザーあるいはデザイナーとしての役割を果たす「プロデューサーシステム」**が必須条件となる。

これまで関西には多くの優れた集積とポテンシャルがありながら、十分な力が発揮できなかったのもこうした存在が欠けていたからと言える。いい提案を出した人間に任せる、という位の大乗的なサポートシステムが必要となつてこよう。

こうしたプロデューサーの活躍の場・環境づくりと発掘・育成を目指して、「**関西プロデュース・ボード**」（仮称）を提言する。

①「関西プロデュース・ボード」

2010年、社会は観客型社会から参加型社会へと移行している。この時代の地域開発をリードしていくのは、高い目標を掲げ、強い実行力で推進して行く「プロデューサー」である。これまでも本会の各委員会をはじめ行政や他の団体など各方面から様々な関西の21世紀ビジョンが示されているが、いかに優れた提案もそれを実行する人に恵まれなければ実現はおぼつかない。先見性、リーダーシップ、資金（調達）力など様々な資質とともに強い情熱で地域を革新する「人」の存在が不可欠である。

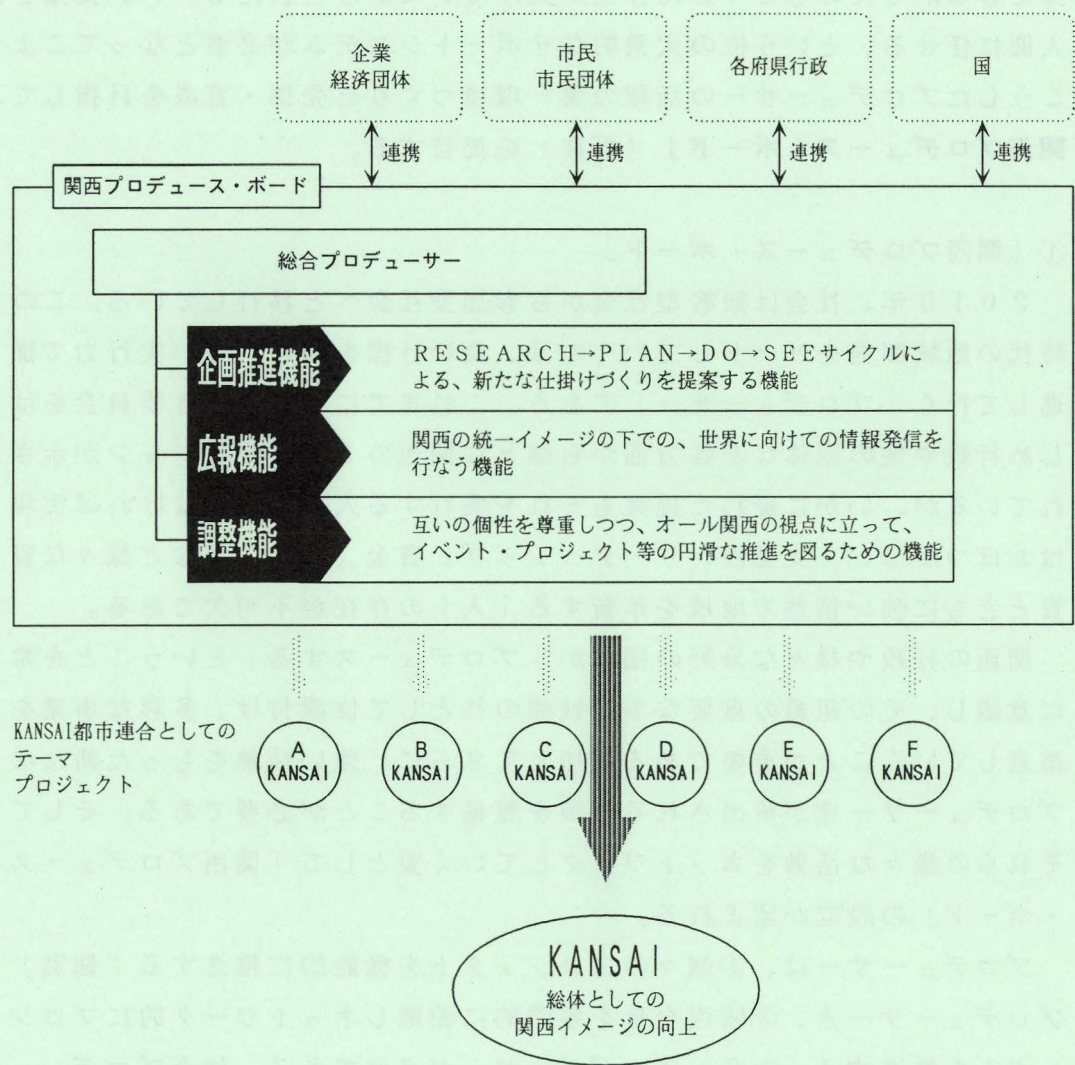
関西の行政や様々な分野の団体が「プロデュースする」ということを常に意識し、その組織の重要な事業戦略の柱として位置付け、多彩な事業を推進していくことが重要である。加えてさらに、強い情熱をもった新たなプロデューサー達が輩出される土壌を整備することが必要である。そしてそれらの様々な活動をネットワークしていく要として「**関西プロデュース・ボード**」の設立が望まれる。

プロデューサーは、①個々のプロジェクトを機能的に推進する「個別」プロデューサーと、②関西全体を戦略的に俯瞰しネットワーク的にプロジェクトを推進する「総合」プロデューサーが必要である。総合プロデューサーは、基本的機能である新たな仕掛けづくりを提案し推進する「企画推進機能」に加えて、オール関西の統一アイデンティティの下で関西全体を世界に向けて情報発信する「広報機能」、多種多様なプロジェクトをオール関西の視点に立って円滑に推進するための「調整機能」を併せ持つ。関西プロデュース・ボードが具体的に機能することにより、活力あふれる新

しい関西が生まれるとともに、「総体としての関西のイメージ」が向上し、魅力人間都市・関西が世界に発信されることが期待される。

2010年の関西が目指す「魅力人間都市」の実現に向けて、「関西プロデュース・ボード」は、これまでに述べた諸提案をはじめ各方面からの提言や様々な広域プロジェクトを具体的に推進、調整する総合プロデュース機関となる。

■ 関西プロデュース・ボードの展開イメージ



「関西プロデュース・ボード」は、（段階的に機能整備を図って行くべきであるが）目標として（１）地域のプロジェクトを総合的・戦略的に推進できる立場とヒト・モノ・カネ・情報等のバックアップ体制の整備、（２）プロデューサーが活躍できる環境整備と今後活躍が期待されるプロデューサーの発掘・育成、を二本柱として展開する。

関西プロデュース・ボードの設立に当っては、経済団体・企業をはじめ市民団体、各府県や国等に広く呼びかけ、設立に向けての準備会を作り推進して行く必要がある。そして中核となるプロデューサーの発掘・育成の仕掛けづくりにについては早い段階から産・官・学の協力のもと準備を進める必要がある。

また、企業家や投資家に対してもベンチャービジネスの支援・育成に資金面からのサポートを行なってきたのと同様に、このような活動にも理解を示し支援体制を取ってもらえるようにアピールしていくことも必要である。

② モデル地区での推進

2010年の魅力ある関西を実現するにあたっては、成功事例を目に見えるかたちで提示していくことが効果的である。そのためには、モデル地区を設定し、集中的に人・モノ・金を投入して具体的な姿を創っていくことを提案する。

モデル地区での推進を検討する具体的案件として、先に述べた「エンターテイメント・バレー」を取り上げ、立地要件について検討を行なった。

● エンターテイメント・バレー

〈イメージ〉

- 情報インフラをベースとして
- 起業家や関連事業者、関連研究・教育機関等が高密度ネットワークを形成し、
- 協働して新たなエンターテイメントビジネスを創出し続けるまち
- また同時に、職・住・遊が互いにリンクすることにより、働く人にも来街者にも楽しい生活を提案できる未来都市

〈立地要件〉

- 利便性が高いこと
 - ・ 多様な交通アクセス（陸・海・空）
 - ・ 都心からの時間距離が短いこと
- 既存プロジェクトとの連携がしやすいところ
- 未・低・再開発地域に可能な敷地があること
- 職・住・遊が融合していること

具体的なモデル地区選定は、今後研究会等を設置して検討を加える必要がある。

③ タスクチームによる推進

モデル地区での推進と同様、具体的なテーマを決めてモデルケースとして推進していくことも重要であると考えられる。モデルケースで推進を図る場合には、今までのような企業の連携にとどまらず、それぞれの企業からモデルケースのプロジェクトに参加し、チームを組んで推進するといったタスクチームでの推進も新しい試みとしてとり入れていく必要がある。

④ 計画中のプロジェクト・イベントを活かした推進

現在、関西には関西国際空港の全体構想、関西学研都市、明石大橋、大阪湾ベイエリア開発、オリンピックやサミット誘致など、数々の大型プロジェクト、大型イベント計画が目白押しである。2010年の関西像を考えるに当たって、これらの数々が完成又は既成した姿とその効果、影響を視野に入れる必要がある。

これらのプロジェクトを通じた関西からの情報発信、整備が進む交通インフラ、情報基盤整備、費やされたエネルギーや資金、ソフトの蓄積など関西が得る多くの「財」を活用したアクションプログラムを作る必要がある。

⑤ 行政との連携

活力あるプログラムを推進して行くためには、何よりも民間－とりわけ企業人がその主役を担っていく覚悟が必要であるが、その実現のためには行政との連携、行政との協力関係が重要である。

この場合重要な概念は「企業市民」という考え方である。企業も一市民であるという考え方はこれまでどちらかというと企業の側から企業のあるべき姿、あるいは役割といった観点から述べられてきたが、ここでは行政との関係で、都市の中の構成員として企業も一市民としての立場に立つとする考え方を強調したい。

経済団体ないしは企業が発案するものであっても、それは企業という一市民の声であり、それら市民の声をどう行政に反映させることができるかという観点から考えていこうという考え方である。頼り、もたれ合うという関係から、企業と行政そして市民がそれぞれ自立した立場で、お互いの役割を認め合いパートナーシップを組んでいくことが必要である。

< おわりに >

当委員会は関西の将来像を描く時点を2010年と設定した。

20世紀の初頭がそうであったように、世紀変わりの混沌の数年を経て新しい世紀の実体的な姿が現れるのは2010年頃であろうと思われる。そして、その頃は計画中のハードの大半が出来上がり、地球環境・情報化・生活者本位・規制緩和・ソフトの時代等々、いま声高に叫ばれていることがコトバ先行から実体として定着していく時代でもある。不自然・無理が矯正され、自然体の納得のいく時代、流れのよい時代が実現されている可能性が高い。垣根のない社会で連帯・共生に価値を感じ、相互連帯の中で幸せを感じる、本当意味での「クォリティの時代」が出現する。

一方、グローバル化が進む中で、地域間競争も激化する。関西が頑張ると同様に国内、海外の他の都市群も力を伸ばしてこよう。2010年を支える若者達のパワーを今から活用しつつ、関西独自の磁力を蓄えることが必要となる。

関西は古くから豊かな歴史、文化、自然環境に恵まれ、アジアを中心とした国際交流を通して多様性のある独自の先進的な精神風土を生み出してきた。21世紀は多様な魅力を持つ関西の各都市がこれらの集積を活かして、明快な地域アイデンティティの下に強力な都市連合ネットワーク力を発揮することが期待される。

こうした動きを促進し、あるいはその触媒となる組織体の提案を以て、期待のもてる時代2010年の関西ビジョンの提言とする。

1996年 **1997年** **1998年** **1999年** **2000年** **2001年** **2002年** **2003年** **2004年** **2005年** **2006年** **2007年** **2008年** **2009年** **2010年**

ホップ
事業展開のための準備等、
オール関西の旗のもとに大きく第一歩を踏み出す時期

ステップ
20世紀中に完成したプロジェクトを活かした
新しい仕組みをスタートさせ、大きく前進する時期

ジャンプ
魅力人間都市実現に向けての積極的な事業展開により、
大きく飛躍する時期

アクション・プラン
関西プロデュース・ボード

関係インテリジェンス・ポート

エンターテインメント・バレー

エンターテインメントビジネス学科の設置要望

エンターテインメントビジネス学科

グリーントラスト10

アジア観光大学

ホスピタリティ倶楽部

マイスターハウス

アジア歴史街道

アジア生活文化研究所

アジア留学生10万人計画

10万人

なみはや国体

ねんりんピック・大阪
ジャパン
フローラ
世界民族芸能祭

世界卓球選手権
東アジア
競技大会

☆サッカー
Wカップ大会

☆大阪
オリンピック

明石海峡大橋

播磨空港

びわこ空港

神戸空港

関西国際空港 2期

京都リサーチ
パーク 2期

西播磨テクノ
ポリス

中之島
国際会議場

淡路夢舞台

ユニバーサル
スタジオ

WHO
神戸センター

大阪
シティドーム

大阪
こどもの城

大阪スポーツ
アイランド

国際文化
公園都市

りんくうタウン

テクノポート
大阪

ひょうごフェニックス計画

平成 6 ・ 7 年度 新しい関西委員会活動状況

平成 6 年

- 6 月 2 0 日 正副委員長会議
 「平成 6 年度の活動方針について」
- 7 月 1 5 日 スタッフ会
- 7 月 1 8 日 正副委員長会議
 「関西の将来像についての主要提言の検討」
- 8 月 2 2 日 正副委員長会議・懇談会
 「関西の将来像についての主要提言および
 平成 6 年度の研究課題・運営について」
- 1 2 月 1 9 日 正副委員長会議
 「委員会の今後の研究課題および運営について」

平成 7 年

- 2 月 1 4 日 スタッフ会
- 2 月 1 6 日 正副委員長会議
 「チーム別テーマに基づく報告および意見交換」
- 4 月 3 日 スタッフ会
- 4 月 1 9 日 講演会・常任委員会
 「安全・安心なうるおいのある街づくり」
 講師 建築家 安藤 忠雄氏
- 5 月 1 7 日 講演会・常任委員会
 「阪神大震災が都市生活者の心にもたらしたもの
 -新しいコミュニティー像を求めて-」
 講師 京都造形芸術大学 教授 野田 正彰氏
- 6 月 1 5 日 正副委員長会議
 「平成 7 年度の活動方針について」
- 6 月 1 6 日 懇談会
 「21 世紀の関西のビジョン」
 講師 国立民族学博物館 顧問 梅棹 忠夫氏
- 6 月 2 1 日 スタッフ会
- 6 月 3 0 日 スタッフ会

- | | |
|--------------|--|
| 7月11日 | スタッフ会 |
| 7月25日 | スタッフ会 |
| 9月 6日 | 正副委員長会議
「提言の方向性について」 |
| 9月28
～29日 | 福岡市、北九州市視察 |
| 10月25日 | スタッフ会 |
| 10月27日 | 講演会・常任委員会
「アジア太平洋時代に求められる都市の総合力
－関西における観光立都の可能性－」
講師 国立民族学博物館 助教授 石森 秀三氏
総合研究大学院大学 助教授 |
| 10月31日 | 常任委員会
「提言作成に向けて－3分科会からの中間報告」 |
| 11月 2日 | スタッフ会 |
| 11月16日 | スタッフ会 |
| 11月22日 | 正副委員長会議
「提言のまとめについて」 |
| 12月20日 | 常任委員会
「提言（案）の検討」 |

平成8年

- | | |
|-------|---------------------|
| 1月 9日 | 常任委員会
「提言（案）の検討」 |
|-------|---------------------|

1月11日	提言「～アジアの『光』輝く都市連合・KANSAIを 目指して～2010年の関西ビジョン 『魅力人間都 市』」（案）を幹事会にて報告
-------	---

2月 6日	提言「～アジアの『光』輝く都市連合・KANSAIを 目指して～2010年の関西ビジョン 『魅力人間都 市』」を記者発表
-------	---

平成7年度 新しい関西委員会常任委員会名簿

(敬称略・順不同・役職は平成7年12月現在)

委員長	志	水	洵	一	博報堂	副社長
副委員長	横	山	善	太	日本航空	取締役 大阪支店長
"	桐	山	謙	一	大阪国際見本市委員会	理事長
"	山	下	健	一	大林組	副社長
"	江	崎	勝	久	江崎グリコ	社長
"	帯	野	久美子		インターアクト・ジャパン	代表取締役
"	藤		洋	作	関西電力	取締役
"	天	野	英	毅	日本開発銀行	大阪支店長
"	斎	藤	顕	一	マッキンゼー・アンド・カンパニー, インク. ジャパン	大阪副支社長
"	井	上	龍	吾	全日本空輸	専務 大阪支店長
"	笈	川		隆	日本エアシステム	取締役 大阪支店長
常任委員	荒	川	宜	三	大和銀総合研究所	取締役
	井	上	尚	男	住友金属工業	取締役
	泉		寿	夫	日本交通事業社	取締役
	臼	井		剛	栄泉不動産	社長
	景	平	直	雄	日立製作所	関西副支社長
	柿	本	寿	明	住友キャピタル証券	副社長
	木	村	啓	介	関西国際空港	副社長
	木	村	庸	利	電通	取締役
	小	松	清	吾	日本電信電話	理事 関西副支社長
	佐々木		基	彦	住友信託銀行	調査部長

城 田 廣 平	富 士 通	関 西 営 業 本 部 副 本 部 長
瀬 川 佑 一 郎	松 下 電 器 産 業	社 会 文 化 部 部 長
寺 内 弘 行	住 友 商 事	取 締 役
天 宅 陸 行	さ く ら 銀 行	取 締 役 大 阪 支 店 長
永 原 義 夫	王 建 工 業	社 長
西 村 辰 夫	エ フ エ ム 大 阪	社 長
能 美 晋	ホ テ ル ニ ュ ー オ ー タ ニ	料 飲 部 長
原 田 明	神 戸 レ ジ ャ ー ワ ー ル ド 開 発	社 長
松 原 徳 一	阪 急 電 鉄	専 務
三 宅 祐 司	三 洋 電 機	専 務
宮 崎 昶	三 和 総 合 研 究 所	専 務
村 田 允	C S K	相 談 役
山 本 誠 實	N T T 関 西 移 動 通 信 網	副 社 長
横 山 齊	日 本 通 運	常 務 関 西 支 店 長
吉 田 二 郎	南 海 電 気 鉄 道	専 務
吉 野 国 夫	ダ ン 計 画 研 究 所	社 長
堀 川 紀 年	博 報 堂	関 西 圏 開 発 部 長
斎 藤 一 男	博 報 堂	関 西 圏 開 発 部 担 当 部 長
清 水 泰 子	博 報 堂	関 西 圏 開 発 部 プ ロ デ ュ ー サ ー
中 野 隆	日 本 航 空	総 務 部 次 長
富 田 祐 志	大 阪 国 際 見 本 市 委 員 会	管 理 部 長

	竹	内	孝	大林組	営業第三部 営業課課長
	中	森	敏裕	江崎グリコ	経営企画室課長
	山	本	一樹	インターアクト・ジャパン	調査役
	小	川	秀樹	インターアクト・ジャパン	調査役
	八	嶋	康博	関西電力	企画室 調査グループ課長
	山	本	直人	日本開発銀行	企画調査課長
	岡	田	典子	マッキンゼー・アンド・カンパニー、 インク. ジャパン	インフォメーション・ スペシャリスト
	小	林	俊一	全日本空輸	大阪支店 総務課リーダー
	岡	崎	幹夫	日本エアシステム	業務部 業務課長
事務局	萩	尾	千里	関西経済同友会	常任幹事 事務局長
	梅	名	義昭	関西経済同友会	企画調査課長
	松	尾	康弘	関西経済同友会	企画調査課 主任研究員
	犬	飼	真規子	関西経済同友会	企画調査課
	坂	井	美佳	関西経済同友会	企画調査課

～アジアの「光」輝く都市連合・KANSAIを目指して～
2010年の関西ビジョン
「魅力人間都市」

平成8年2月29日発行

発行者 社団法人 関西経済同友会

常任幹事 萩 尾 千 里
事務局長

大阪市北区中之島6丁目2番27号

電話 (06)441-1031

印刷所 東洋印刷製本株式会社

大阪市東住吉区桑津4丁目6番17号
